

# 外大東北復興支援隊

## TUFS for Tohoku



### 【About us】

東日本大震災の被害を目の当たりにし、「東北復興のために自分達に何かできることはないのだろうか。」という想いを抱えていた学生4人によって、“外大東北復興支援隊”は2011年4月21日に設立しました。東北が復興するのに何年かかるか分からない今、求められているのは長期的な支援活動です。NGOと協力して、現地から、そして大学から、私たちの活動内容を東京外国語大学学生ならではの方法で発信していきます。

私たちは被災された方々の復興の手助けとなる活動を行うことで、被災された方々を支えたと共に、学生にとって学びとなる活動を行うことを目的とし、活動を始めました。

設立メンバー代表：吉村健吾（外国語学部ポルトガル語専攻4年）

副代表：太田華江（大学院国際協力専攻M2）

顧問：船田クラースンさやか 准教授

現在、大学院生・学部生あわせて約25名の外大生が、宮城県石巻市で活動するNPO法人JEN（緊急支援のための国際NPO）や石巻専修大学の学生ボランティア団体等、他団体のご協力を得て、石巻市でのボランティア活動を行っており、また当団体顧問の「船田クラースンさやか先生が代表を務める福島乳幼児妊産婦ニーズ対応プロジェクト <http://fukushimaneeds.blog50.fc2.com> のサポートにも携わっています。

【代表より】

東北の人々に大きな被害をもたらしたあの震災から1年が経過しました。1年前と現在では、現地の様子は大きく変わっています。その歩みには数々の復興支援団体がかかわってきましたが、ここまで復興が進んだのは地域住民の方々の努力によるところが非常に大きいと思います。外大東北復興支援隊は、4月21日に発足1周年を迎えました。これからも地域住民のみなさんに寄り添った活動を、続けてまいります。



ポルトガル語専攻4年 吉村健吾

【活動内容】

①コミュニティカフェプロジェクト：宮城県石巻市中屋敷地区で、現地で活動するNPO法人JEN (<http://www.jen-npo.org/>)の運営するコミュニティカフェ「なかやしきっさ」で、地元の方々に情報交換と憩いの場を提供する目的で昨年夏よりスタートしました。開始当時は来客がほとんどない状態でしたが、地道な宣伝活動が功を奏したのか、今では子供たちを中心に多くの方に来ていただけるようになりました。

②東松島市学習支援プロジェクト：昨年10月から新しく加わった活動です。同市から依頼を受けた「ボランティアチーム暁（あかつき）」主催の、仮設住宅集会所での小中高生への学習支援（土曜日※15時～17時）に協力させていただいております。

※2012年3月より。2月までは16時～21時でしたが、変更となりました。



【活動報告・今後の予定】

- 1月 14・15日現地活動 27日 学内説明会
- 2月 10日 都立八王子北高校にて活動紹介  
24～26日遠征（24日：大曲小学校での異文化交流イベント）
- 3月 24日～4月8日 春休みの現地活動
- 5月 新メンバー募集 19・20日現地活動
- 6月 現地活動
- 7月 現地活動
- 8月 夏休みの現地活動（2週間）
- 9月 写真展
- 10月 外語祭準備
- 11月 外語祭出展

※現地での活動は昨年までほぼ毎週行ってきましたが、2012年より月1回となりました。（長期休みを除く）

### 【活動をふりかえって】

#### ○大曲小学校でのイベント

支援隊が活動中たびたびお世話になっていた、「なかやしきっさ」向かいにお住まいの方に声をかけられたことをきっかけに、2月24日(金)宮城県東松島市立大曲小学校にて、異文化交流イベントを行いました。小学3年生と4年生約120名を対象に、留学生が国紹介をしたり、みんなで言語を使ったゲームをしたりと盛り上がりました。(参加メンバー：留学生2名・日本人学生5名)

\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*

大曲小で私が教わったこと。

それは「ありがとう」の気持ちがこんなにも温度をもっているということ。

私達を迎えてくれた、手作りの国旗と WELCOME の文字が並んだ歓迎看板。

授業中の、みんなの新しいことを知ろうとする真剣な眼差し。

触れ合うたびに変わる表情、弾ける笑顔。

みんながこの出会いを喜んでくれたこと、新しい学びを真剣に受け止めてくれたこと、一緒に過ごした時間を楽しんでくれたこと。

それを伝えてくれた、「ありがとう」の言葉と気持ちが、こんなにあったかくて、熱いものだとは初めて知りました。

このあたたかさを人に伝えられる大曲小のみんなは本当にすごいんだよ。誰もができることじゃないから。

みんなには、みんなの「ありがとう」がこんなに人をあったかくできるってことを知ってほしい。だれかをあたためられるってことを。

だから、今度は私に言わせてください。

大曲小のみんなに会えてよかった。ありがとう。

あの日はさむかったけど、みんながいたからあったかかった。

次に行けるのは夏休みかな。

みんなの「ありがとう」で暑くなった大曲に、会いに行きます。

(日本語専攻2年 安達佳奈)

#### ○春休みの活動

子どもたちの春休み期間(3/24~4/8)に合わせて、メンバー入れ替え制で毎日「なかやしきっさ」での活動を行いました。(参加人数：27名)

##### ～一日の主なスケジュール～

7:00 起床・朝食・

9:00 「きっさ」開店 子どもたちは10時まで勉強タイム、終わったら遊び

12:00 昼休憩 13時から再開

14:00~お菓子作りなど (土曜日は東松島へ)

16:00 閉店、掃除





### ○参加者からの声

私は今まで東北に行ったことがなく、この春に初めて支援隊の活動に参加させていただきました。なかやしきっさで出会った子供たちは、やんちゃな子からしっかりものまで個性豊かでしたが、みんな心を開いてくれて嬉しかったです。子供たちの笑顔を見て、なかやしきっさが子供たち、そして近隣の方々にとって大切な場所となっているのだと感じました。また、ボランティアに來ている様々なNPO団体の方々と触れ合うことができたのも良い経験だったと思います。



震災から1年が過ぎましたが、子供たちの話から折垣間見える被災の記憶から、目に見えない震災の傷跡は依然残っており、決して忘れてはいけないということを改めて実感させられました。東北で何かがしたいという思いを抱えていながら行動に移せずにいた1年でしたが、支援隊の活動に参加し実際に現地に赴くことで、東北の温かさを肌で感じる事ができたと思います。(フィリピン語専攻3年 山本栞)

私は今回、初めて支援隊の活動に参加しました。同時に、被災地の支援活動というものに参加したのも初めてでした。

4月の終わりの三日間、コミュニティカフェなかやしきっさで小学生の子どもたちと思いっきり遊びました。サッカーと鬼ごっこをよくしたのですが、子どもたちとのサッカーは、適当にやればもっと本気を出せと言われ、本気を出すと大人げないと言われ、何だかとても楽しかったです。

子ども同士でケンカもしていて、どうしたらいいか疲れてしまった時もあったのですが、私たちは何も言っていないのに、子どもたちが自分たちで作ったルールを作って手紙にして私たちのところへ持ってきてくれて、三日間だけだったのに、その成長ぶりに感動してしまいました。



子どものルール

- ・なげりせぬない。
- ・チャンスは、1回まじ(みんなは2回)
- ・必ず毎日へんきよをする。しないうまやえる。
- ・みんなをいじめない。わざとやえる。
- ・外大のりょうこもきく(やえる)。
- ・外大いじめない。

よけいなことはいわない。

- ・死ぬとかいわない。
- ・きえるとかいわない。
- ・かえるといわない。

私が石巻でしたのは、大それた事ではなくて、いち大学生として小学生と楽しく遊んだ、という事です。そこにあるのは被災地の子どもと優しいボランティアさん、という関係ではなくてただただ小学生と大学生のつながりでした。

東京で地震を経験した私は、何かしなければと思ったものの、自分の能力とか、経験とか、度胸とかそういうものが足りなくて、今まで通り自分の目の前にあることをやる、普段と同じに生きると決めて一年間過ごしました。

ビジネスとしてもボランティアでも様々な場所で支援というものが行われていて、何となく自分はこれでいいのかが不安でした。

東京生まれの私にとって今回の震災はやっぱり他人事です。石巻の現実とは関係なく毎日が進んでいきます。

震災から一年目の春に石巻へ行って、子どもたちと遊んだり、石巻の方の話を聞いたり、まだ震災以降そのままになっている地区を見に行ったり、ボランティアとしてビジネスとして外から石巻へ入ってきた方と話したり。

そういった経験を通じて、一年経ってやっと震災が自分の中でどういうものとして存在しているのか少し分かったような気がします。今回参加して得た感覚や、人とのつながりをスタートに、これから震災と、東北と、もっと関わっていききたいなと感じました。(チェコ語専攻3年 藤田琳)

### ○留学生の参加メンバーより

はじめまして。私は韓国人のソンボンギルと申します。私は2月24~25日東北の石巻市へ行って来ました。そこで私がしたことは大曲小学校で韓国の文化を紹介したり、子どもたちと一緒に遊んだりすることでした。

また「なかやしきっさ」ではちょうど雪が降ったので小学生と雪合戦をしたり、カマクラを造ったりし、本当に楽しく時間を過ごさせて頂きました。またそこで住んでいる方々の話も聞けて本当に自分にとって有益な時間だったと思います。



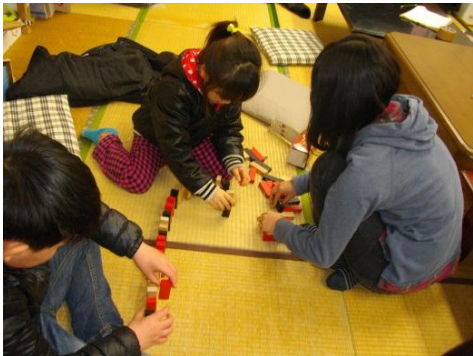
初日、小学校に訪問した時、PTSDや小学校の被害、また学生の今の生活などに関して色々説明を聞きました。あまり良い話ではなかったので私は少し心配しました。子供たちはどのような考えを持っているだろうか。もしかしてネガティブな考えを持っているのではないかと。ですが実際に子供たちと出会った時、私は真逆の印象を受けました。とても元気よく、明るい顔をしていました。そして私たちを笑顔で迎えてくれました。韓国に関して説明するときも本当に興味深い顔で聞いてくれてうれしかったです。

そこで聞いた話で、一つ頭の中に残っている話があります。簡単に紹介したいと思います。震災の直後、食べ物が足りなく、友達と分け合って食べたそうです。その時に小学生が言った言葉が「友達と一緒に食べれて良かったです」だったとのことでした。それを聞いて私は「なんとえらい」と思いました。この子ども達だったら心配は無用ですと。今後も元気に育てほしいです。



二日目の子供たちは雪で大興奮でした。子供は子供でしょうか。雪合戦や、カマクラ造りで大騒ぎでした。服が濡れるのもかまわず、本当に楽しんでいる姿を見て、私も気分がよくなりました。子供は元気いっぱい楽しく過ごすのが一番いいと私は思っています。そして今回そのような子供たちに出会えてよかったと思っています。

実際に自分が行く前は東北といったら危ないところだなという考えだけを持っていました。なぜならば、韓国ではほぼ毎日放射能や津波に関する情報だけが流されていたためです。今回自分の目で現地のことを確認することが出来てよかったと思います。そして少しでありながら私の偏見を無くすことが出来たと思います。そしてそこで元気いっぱい復興に向かって、前向きに過ごしている方々の姿を決して忘れることはないと思います。  
(日研生 ソンボンギル 韓国人留学生)



去年の悲劇的震災の後で、石巻市の人びとの努力は日本人の強さや回復力を証明しました。日本は再び前例のない自然災害において、世界の他の国々のために手本を示しました。もっと具体的な話に注目して見ると、石巻市のコミュニティカフェのようなたくさんのお話に出会うことができます。カフェのオーナーのご厚意のおかげで、このカフェは、大人と子供たちが希望や平和を見出せる所になっています。

そしてもちろん、カフェの子供たちは、震災で心の傷を負ったのが嘘のように、私たちがあたたかく迎えてくれます。そのおかげで、私はこの短い週末のボランティア活動が、楽しい旅行になったように感じられました。私のような、日本人には全くなじみのない人とさえ、子供たちは仲良くしてくれました。あそこで二日間を過ごした今、私は、将来のための祈りと同情の言葉よりは、津波による被害が必ず回復するだろうと信じています。

The effort to restore life in Ishinomaki, after the tragic event of last year, proved the vigour and strength of Japanese nation. Once again, Japan managed to create an example to rest of the world out of an unprecedented natural disaster. When we pay attention to tinier stories rather than the big picture, it is unavoidable not to come across a lot of stories like the community cafe of Ishinomaki. Thanks to the hospitality of the place owner, the building once an office has transformed into a community center, where both adults and kids rediscover hope and peace. And of course, the children... As if they were never psychologically traumatized, children of Ishinomaki pull anyone near them into their peaceful world and turn a short weekend of volunteering to a journey to oneself. Even a total stranger to Japanese - like me- cannot resist. Words of good wish and sympathy for the future seem meaningless now. Because after two days spending there, I know that each wound tsunami caused will be relieved shortly.



(和訳：I-SEP トルコ人留学生 Cankız Çevik、原文：Doğu Eroğlu)



## ○現地からの声

厳しい冬を越え暖かい春の訪れに心踊る今日この頃の石巻。こちらもいづらか街もきれいになり徐々に復興が進んできたように思います。

昨年10月よりはじまりみなさんにも手伝ってもらった菜の花プロジェクトの菜の花も今満開を迎えております。地元の人たちとお花見をしてみんなで楽しみました。

まず、このプロジェクトを理解し協力してくれた外大支援隊のみなさんにお礼を言いたいと思います。ありがとう！

そしていつも外大の学生さんたちが子供らに勉強教えたり遊んでくれたりするのを見て感心していました。お兄さんやお姉さんと会える日をいつも楽しみにしている上釜のわんぱく達にも会いにきて下さい。

震災から1年以上が経ち、これからのボランティアのあり方、活動や支援のあり方など、団体として個人としてたくさん考える機会があると思います。でも嬉しいのはなによりもみなさんと出会い笑い、お話したこと・人として心を通わせたことが大きな財産ですし、ここでできた繋がりからこれからも交流できたらと思います。

今度また遊びにきてください。

石巻在住 堀渉平

(堀さんは、昨年夏ボランティアとして石巻市に入った後、現在は働きながら復興作業を並行して行っていて、外大支援隊が遠征の際いつもお世話になっています。)

なかやしきさきほど近い「美浦旅館」の修復作業は、経営者三浦啓さんの多大な努力により急ピッチで進み、再オープンは間近に迫っているようです。

美浦旅館ブログ <http://yoidore082.blog32.fc2.com/>



## ○東京にて

1月27日(金)、外大の円形食堂にて支援隊の活動説明会兼懇親会を行いました。学内外から約30名が集まり、「震災から1年・そしてこれから」というテーマのもと、すでに活動に参加している人、これから石巻へ行きたいと考えている人などで、写真を見ながら自由に話しました。

2月10日(金)には、当団体がお世話になっているNPO法人「コドモ・ワカモノまちing」(<http://www.k-w-m.jp/index.html>)理事長・星野さんのお誘いのもと、都立八王子北高校にて、「防災教育～もしここが避難所だったら?～」の一環として、1年生約300人に対し支援隊の活動紹介をさせていただき、また生徒のグループ学習のファシリテーターを担当しました。(支援隊からの参加者:3名)



### 【協力団体】

福島乳幼児妊産婦ニーズ対応プロジェクト <http://fukushimaneeds.blog50.fc2.com>  
特定非営利活動法人ジェン（JEN） <http://www.jen-npo.org/>  
WataChildren <http://watachildren.blogspot.com/>

### 【寄付金ご協力のお願い】

当団体では継続的・長期的な活動を目指しているため、交通費など多くの資金を学生だけで負担するのは厳しい状況にあり、一〇一万円からの寄付金を募ることで、皆さまのご協力のもとボランティア活動を行っております。皆さま方に私どもの活動経費のために寄付金のご協力をお願いするのは、大変厚かましいことと存じておりますが、ご寄付をいただくとありがたいです。（\*一万円以下のご寄付についても、もちろん受け付けております。）

ご協力頂ける方は、当団体連絡先：[tufs.tohoku2011@gmail.com](mailto:tufs.tohoku2011@gmail.com) までご連絡ください。ご都合のよろしい日時・場所をご指定くだされば、代表の吉村か副代表の鈴木、または他のメンバーがご指定の日時・場所にご寄付をいただきに参ります。

また、当団体の振替口座へ寄付金を振り込んでいただくこともできます。振替口座への振り込みをご希望される方は、振替払込申込書をお届けに伺いますので、上記の連絡先までご都合のよろしい日時・場所をご連絡ください。

振り込み先：振替口座記号番号 00150-8-566431 / 加入者名 外大東北復興支援隊  
ATM・銀行からお振り込みされる方は、ゆうちょ銀行 店名：019（府中紅葉丘支店） / 預金種目：当座 / 口座番号：0566431 とご記入ください。

頂いたご寄付については、大切に管理、使用させていただきます。また本ニュースレターやメールにて、定期的に活動及び会計報告をさせていただいております。何かご意見やご質問がございましたら、上記の連絡先までご連絡ください。

いたらない点多々ありますが、ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。お忙しい中、最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

### ☆活動メンバー募集中☆

私たち外大東北復興支援隊は、現在活動メンバーを募集しています。石巻市でのボランティア活動の他にも、イベントの企画・運営や外語祭に向けた準備等、被災地へ直接赴かなくても参加できる活動はたくさんあります。

外大東北復興支援隊に参加したい方、興味がある方は毎週水曜日のお昼休みに 106 教室で活動報告会を行っておりますので、ぜひ話を聞きに来てください。

お気軽に弊団体連絡先：[tufs.tohoku2011@gmail.com](mailto:tufs.tohoku2011@gmail.com) までご連絡ください(^o^)

外大東北復興支援隊ニュースレター 第5号 2012年5月9日発行

編集者：和田梨紗子、吉村健吾、太田華江、山本一美

発行所：外大東北復興支援隊（東京都府中市朝日町3-1-1 船田クラークン研究室）

E-mail：[tufs.tohoku2011@gmail.com](mailto:tufs.tohoku2011@gmail.com)

ホームページ：<http://www.tufs.ac.jp/st/club/tufsfortohoku/index.html>